

⑨ 飼料用稲生籾サイレージの増収・品質向上・省力化技術の開発(H24～26年度)

実施主体：畜産試験場

担 当：家畜研究部資源活用研究 G

連携機関：農業試験場

1. 研究の目的・必要性

輸入飼料の高騰に対応し、低コストで安心な県内産飼料の自給率を高めるため、水田を有効に活用し、技術や施設の有効利用できる飼料米の生産推進により本県農業の活性化を図る。

本研究では、飼料米の乾燥作業が省略でき、大幅な省力化が期待できる生籾サイレージ[※]の発酵特性を解明し、収量性や品質、保存性の高い製造技術を確立する。

※破砕処理した生籾を密封して発酵させたもの

2. 研究項目・内容・年度計画等

研究項目	研究内容	実施年度		
		H24	H25	H26
①生籾サイレージ品種の選定、栽培方法の確立	・栽培試験による品種の選定、施肥量および刈り取り適期の検討、ならびにサイレージ品質の検討	品種の選定 ・栽培試験 ・サイレージ品質試験	刈り取り時期の検討 ・栽培試験 ・サイレージ品質試験	施肥量の検討 ・栽培試験 ・サイレージ品質試験
②生籾サイレージの長期保存性向上技術の確立	・乳酸菌添加および水分添加量と保存性の検討 ・充填バッグの素材と保存性の検討	発酵試験（実験室・パック）		
			発酵試験（屋外・フレコンバック）	

3. 期待される成果等（成果目標）

- ・生籾サイレージ用専用品種および栽培方法の確立ー生籾サイレージ10aあたり生産量 1トン
- ・生籾サイレージ長期保存技術の確立ー保存期間向上 現状：9ヵ月 → 12ヵ月、12ヵ月貯蔵後の発酵品質の良否判断の指標80点以上（良質な基準）
- ・研究成果を畜産農家に飼料米を供給する水稻生産組織へ技術移転することにより生産額 10,890千円（9,000円/10a）増、生産費：14,520千円（12,000円/10a）減

4. 要求額 4,005千円（財源：国庫10/10〔特別電源所在県科学技術振興事業費補助金〕）